

学 力 検 査 問 題

国 語

注 意

1. 合図があるまで、この問題用紙を開いてはいけません。
2. 問題は大問一から大問四まであります。問題は縦書きです。
3. 答えはすべて解答用紙に書きなさい。
4. 字数が指定されている問題は、句読点やかぎかっこも一字に数えなさい。
5. 小説・論説・資料の文章は、この問題のために書き下ろしたものです。

学校名

名前

得点 /60

これは、ちりつもドリルが沖縄県立高校入試の形式に合わせて作ったオリジナル問題です。実際の入試問題ではありません。

【一】次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

中学二年生の「ぼく」は、陸上部で三千メートルを走っている。九月の終わりの土曜日、県大会の予選まであと二週間という日の午後、ぼくは、おばあしのシークワサー畑にいた。

山のふもとの畑では、まだ青い実が、葉のかげにびっしりとなっている。強い日ざしの下ではさみを動かしていると、額aから汗が流れ落ちた。

この一か月、ぼくのタイムは、まったく縮まらなかった。同じ学年の部員たちは、少しずつ記録をのぼしている。ぼくだけが、同じ場所で足踏みをしている。毎日、だれよりも長く走っているのに。そう思うたびに、胸の奥に重いものがたまっていくようだった。先週の部活では、親友のタクミが、ぼくの前でゴールした。「あと少しだよ、ユウマ」と笑って肩をたたかれたとき、ぼくは笑い返すことができなかった。

「ユウマ、手が止まっているさ」

おばあ声で、ぼくははっとした。気がつく、はさみを持ったまま、ずっと遠くの海を見ていた。

「走るの、うまくいかんの」

「……なんで分かるの」

「顔に書いてあるさ」

おばあは麦わら帽子をぬいで、首のタオルで顔をふいた。ぼくは、はさみをかごの上に置いて、ぽつりぽつりと話した。タイムが縮まらないこと。ほかの部員に置いていかれそうなこと。毎日走っているのに、何も変わらないこと。話しているうちに、のどの奥が熱くなって、言葉がうまく出てこなくなった①。

おばあは黙って聞いていたが、やがて、一本の木を指さした。

「あの木を見てごらん。実が、まだ青いままでしょ」

「うん」

「青いうちに採ると、酸っぱいけど香りがいい。黄色くなるまで待つと、まろやかになって甘い。どっちがいいとか、早いからいいとか、そういうものじゃないさ。木ごとに、実の熟すときは違うからね」

ぼくは、おばあ話の意味がよく分からず、思わず（②）をかしげた。

「でもね、ユウマ。この木はぜんぶ、おじいさソダてた木よ。実がなる前に、木は、土の中で何年も根をのぼしておる。人の目には見えんところだよ。根が太くならんうちは、おいしい実はならんさ」

おばあは、ぼくの顔をのぞきこんで、にっと笑った。

「ユウマの足も、いま、根をのぼしているところかもしれないね。見えただけで」

ぼくは、返事のかわりに、もう一度はさみを手に取った。胸の奥で固まっていたものが、すつとほどけていく③のような気がした。

それから二人で、黙ってはさみを動かした。青い実をかごに入れるたびに、ぱさりと小さな音がした。西の空が赤くなるころには、かごはいっぱいになり、さつきまで見ていた海は、金色にかがやいていた。

翌日の日曜日、ぼくは夕方の河川敷を、いつものコースで走った。ススキが風にゆれていた。おばあの言葉を、心のハゲdみにして。最初の二周は、いつもよりゆっくり走った。三周目、背中にあたる風を、少しだけ心地よく感じた。そして、最後の一周に入ると、息が苦しくなり、足も重くなった。けれど、前を走る人を追いぬこうとして、あわてることはなかった。ただ、自分の足音と呼吸だけを聞いて、ゴールまで走りきった。

時計を見ると、タイムは、先週とまったく同じだった。それでも、ぼくは小さく笑った④。

帰り道、自転車のかごの中で、おばあにもらった青い実のふくろが、かさかさと言を立ててゆれていた。

(ちりつもドリル書き下ろし)

問一 a 二重傍線部 a の漢字の読みを、ひらがなで書きなさい。

問一 b 二重傍線部 b の漢字の読みを、ひらがなで書きなさい。(送りがなは書かなくてよい。)

問一 c 二重傍線部 c のカタカナを、漢字に直して書きなさい。(送りがなは書かなくてよい。)

問一 d 二重傍線部 d のカタカナを、漢字に直して書きなさい。(送りがなは書かなくてよい。)

問二 傍線部①とあるが、このときの「ぼく」の気持ちとして最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 毎日走っても結果が出ないことがくやしく、どうしてよいか分からず焦っている。

イ 走るのがいやになり、陸上部をやめたいと思っている。

ウ おおあが話を聞いてくれないことに、腹を立てている。

エ ほかの部員よりも上達していると思い、得意になっている。

問三空欄②に入る言葉として最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び、記号で答えなさい。

ア首

イ肩

ウ腕

エ胸

問四傍線部③とあるが、このときの「ぼく」の気持ちとして最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び、記号で答えなさい。

アすぐに結果が出なくても、見えないところで力が育っているのだと思えて、気持ちが軽くなっている。

イおばあにはげまされて、これまでより長く走ろうと決意を固めている。

ウ実の育て方を教えてもらい、畑の仕事をもっとしたいと思っている。

エほかの部員にもすぐに追いつけると分かり、ほっとしている。

問五傍線部④とあるが、「ぼく」が笑ったのはなぜか。「根」という言葉を使い、タイムが変わらなかったことにふれて、35字以上50字以内で書きなさい。

【二】次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(①～⑨は段落の番号を表す。)

① 授業中、先生が黒板に書いたことを、一字も落とさずにノートに写す。まじめな人ほど、そうしようとする。ノートがきれいに埋まると、「よく勉強した」という気持ちにもなる。

② しかし、テスト前にそのノートを開いてみて、意味がよく分からず困った経験はないだろうか。書いてあるのに、思い出せない。それは、書き写しているあいだ、頭が手を動かすことだけで精いっぱいになり、内容を考える余裕^eがなかったからである。

③ たとえば、同じ話を聞いた二人の生徒がいるでしょう。一人は、先生の言葉を、聞こえたままに書き写した。もう一人は、聞き終わったあとで、「つまり、こういうことだ」と、自分の言葉で短くまとめた。一週間後、どちらが内容をよく覚えているだろうか。多くの場合、自分の言葉でまとめた人のほうだろう。

④ これは、ノートに限った話ではない。道案内を聞いたときを考えてみよう。地図をそのまま写した人より、「コンビニの角を左、郵便局が見えたら右」と、自分の言葉で言い直した人のほうが、迷わずにたどり着ける。言い直せるということは、道筋が頭の中に入っているということなのだ。

⑤ スポーツの練習でも同じことが言える。コーチから「もっと腰を落として」と言われたとき、ただ言われたとおりに動くだけの人は、次の日には忘れてしまうことが多い。一方、「腰を落とすと、ボールが見やすくなるのだな」と自分の言葉で理解した人は、場面が変わっても、同じ動きを自分で作り出すことができる。言葉を自分の中でつくり直すことが、体に覚えさせることにもつながるのだ。

⑥ では、なぜ言い直すと身につくのか。言い直すためには、話の中のどこが大事で、どこがそうでないかを、自分で選ばなければならない。その選ぶ作業が、そのまま「考える」ということなのである。書き写すだけのときには、この作業が抜けてしまう。

⑦ 「自分の言葉にすると、まちがえるかもしれない」と心配する人もいるだろう。確かに、最初は不正確なまとめになることもある。しかし、まちがいは、あとで先生の説明や教科書と見比べることで直すことができる。まちがえながら言い直す練習を重ねることで、まとめる力は少しずつ育っていく。

⑧ もちろん、書き写すことがむだなわけではない。数式や年号のように、セイカクfさが求められる大切なものは、そのまま写す必要がある。(X)、すべてを写せばよいわけではない。写すものと、自分の言葉でまとめるものを、使い分けることが大切なのだ。

⑨ ノートは、先生の話の「記録」であるだけでなく、自分の頭の中を整理する「道具」でもある。次にノートを開くときには、ただ写すのではなく、「これを一言で言う又何だろう」と自分に問いかけてみよう。その一言が、あなたの本当の「学び」になる。

(ちりつもドリル書き下ろし)

問一 e 二重傍線部 e の漢字の読みを、ひらがなで書きなさい。

問一 f 二重傍線部 f のカタカナを、漢字に直して書きなさい。

問二 空欄 X に入る言葉として最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び、記号で答えなさい。

ア たとえば

イ だから

ウ ただし

エ そして

問三次の文の空欄に入る言葉を、本文の②から七字で抜き出して書きなさい。

書き写しているとき、人の頭は「
」だけに使われてしまい、内容を考える余裕がなくなる。

問四 傍線部「大切な」の品詞として最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 形容詞

イ 形容動詞

ウ 連体詞

エ 名詞

問五 傍線部「その選ぶ作業が、そのまま『考える』ということなのである」とあるが、これはどういうことか。最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 言い直すには、話の大事な点とそうでない点を自分で選ばなければならず、その過程で自然に考えることになるということ。

イ 先生の話の一字も落とさず書き写すことが、考える力をきたえる最もよい方法であるということ。

ウ 自分の言葉でまとめるときは、先生が黒板に書いたことを見ないで書くのがよいということ。

エ 話の内容を選んで書くと、ノートが短くなり、見直す時間が少なくてすむということ。

問六本文の内容や筆者の考えに合うものとして最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び、記号で答えなさい。

ア書き写すことはむだなので、ノートはとらないほうがよい。

イ数式や年号など正確さが必要なものは写し、ほかは自分の言葉でまとめるなど、使い分けることが大切である。

ウ言い直した内容は、先生の言葉と少しでも違うと意味がないので、正確に写したほうがよい。

エノートは先生の話の記録であり、頭を整理する道具としての役割は考えなくてよい。

問七筆者が読者に具体的な行動をよびかけている一文を⑨から探し、はじめの五字を書き抜きなさい。（句読点も一字に数える。）

【三】次の【古文】と【漢文】を読んで、後の問いに答えなさい。

【古文】

仁和寺にある法師、年寄るまで石清水を拝まざりければ、心うく覚えて、あるとき思ひ立ちて①、ただひとり、徒歩よりまうでけり。極楽寺・高良な
どを拝みて、かばかりと心得て②歸りにけり。

さて、かたへの人にあひて、「年ごろ思ひつること、果たし侍りぬ。聞きしにも過ぎて尊くこそおはしけれ。そも、参りたる人ごとに山へ登りしは、
何事かありけん、ゆかしかりしかど、神へ参るこそ本意なれと思ひて、山までは見ず」とぞ言ひける。

少しのことにも、先達はあらまほしきことなり。③

(注) 仁和寺Ⅱ京都にある寺。 石清水Ⅱ石清水八幡宮。山の上にある。 極楽寺・高良Ⅱ石清水八幡宮のふもとにある寺と社。 かたへの人Ⅱ仲間
の人。 心うしⅡ残念だ。 ゆかしⅡ知りたい。 本意Ⅱ本来の目的。 先達Ⅱ案内をする人。 あらまほしⅡあつてほしい。

(『徒然草』による)

【漢文】

(書き下し文)

子曰はく、学びて思はざれば則ち罔し④。思ひて学ばざれば則ち殆し⑤、と。

(注) 子Ⅱ孔子。 曰はくⅡ言うことには。 罔しⅡはつきりしない。 殆しⅡ危うい。

(『論語』による)

問一傍線部①「思ひ立ちて」を、現代かなづかいに直し、すべてひらがなで書きなさい。

問二傍線部②とあるが、法師はどのように思いこんだのか。最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び、記号で答えなさい。

ア ふもとの極楽寺・高良を拝んだことで、石清水八幡宮に参ったことになると思ひこんだ。

イ 山に登るのは大変なので、ふもとだけで十分だと、疲れて考えた。

ウ 参拝する人が多かったので、またの機会にしようと考えた。

エ 仲間と一緒に参るほうが望ましいと考えた。

問三傍線部③は、筆者のどのような考えを述べたものか。最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 小さなことであっても、その場所や事がらをよく知っている案内人がいてほしいものだ。

イ 一人で出かけると危険なので、いつも仲間と行動したほうがよい。

ウ 神仏にお参りするときは、山の上まで登るのが決まりである。

エ 寺や神社に行くときには、人の少ない日を選ぶのがよい。

問四傍線部④の意味として最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 学んだだけで自分で考えないと、身につかず、はつきりとは分からない。

イ 学ぶことよりも、自分で考えることのほうが、いつも大切である。

ウ 学んだことは、考えなくても、いつか自然に分かるようになる。

エ 学ぶ時間が短いと、考えることもできなくなる。

問五傍線部⑤の意味として最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 考えるだけで学ばないと、思いこみになって、危うい。

イ 考えるよりも、たくさん学ぼうが、いつも正しい。

ウ 学んだあとで考えると、かえって混乱してしまう。

エ 考えることをやめれば、学ぶことも楽になる。

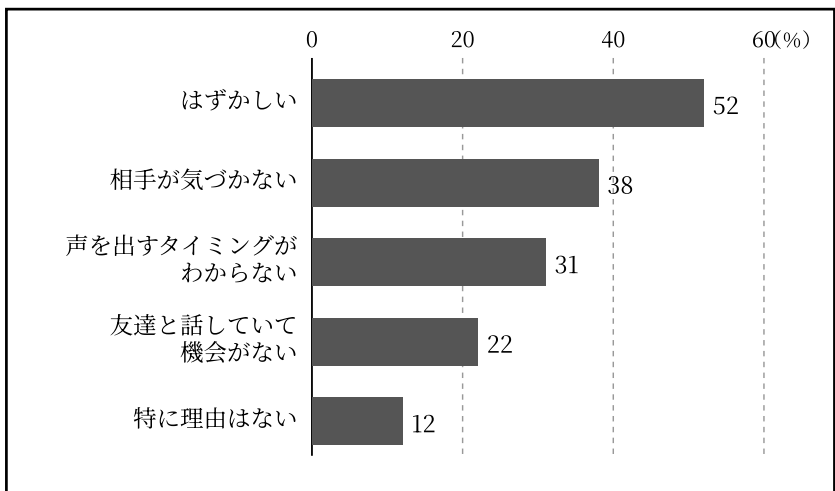
【四】 次の【資料1】【資料2】と【話し合いの一部】を読んで、後の問いに答えなさい。

ある中学校の生徒会が、「あいさつ運動」を計画するために、全校生徒300人（各学年100人）にアンケートを行った。次は、その結果と、生徒会役員の話し合いの一部である。（この学校とアンケートは、ちりつもドリルが作った架空のものである。）

	いつも している	ときどき している	あまり しない	ほとんど しない
1年	45	35	15	5
2年	32	38	20	10
3年	26	34	26	14

(%) 各学年100人

【資料1】 登校時に自分からあいさつをしているか



【資料2】 あいさつをためらう理由（「いつもしている」以外の人が答えた。複数回答）

【話し合いの一部】

ナナ（司会） 今日、あいさつ運動をどう進めるかについて、意見を出してください。

ダイチ 【資料1】を見ると、学年が上がるほど、「いつもしている」と答えた人が少なくなっています。三年生にも参加してもらえる工夫が必要だと思います。

リコ 【資料2】では、「はずかしい」が最も多く、半分以上になっています。みんなで一緒にあいさつをする日をつくれば、はずかしさが減るのではないのでしょうか。

ダイチ 賛成です。それに、先生方にも校門に立っていただき①、あいさつの見本を見せてもらうのはどうでしょうか。

ナナ（司会）　ここまでで、三年生が参加できる工夫、みんなで一緒にあいさつをする日、先生方の協力、という三つの案が出ました。次に、ポスタ
ーに書く言葉を考えましょう。②

問一【資料1】から読み取れることとして最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び、記号で答えなさい。

ア「いつもしている」は、どの学年でも「ときどきしている」より多い。

イ「いつもしている」と答えた割合は、学年が上がるほど低くなっている。

ウ「ほとんどしない」は、どの学年でも10%以下である。

エ「あまりしない」と「ほとんどしない」を合わせると、一年生が最も多い。

問二【資料2】から読み取れることとして最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び、記号で答えなさい。

ア「はずかしい」と答えた人は、半数を超えている。

イ「相手が気づかない」が、最も多い理由である。

ウ「特に理由はない」が、二番目に多い理由である。

エ「友達と話していて機会がない」は、「声を出すタイミングがわからない」より多い。

問三傍線部①「立っていただき」の敬語の種類として最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 尊敬語

イ 謙讓語

ウ 丁寧語

エ 尊敬語と丁寧語

問四傍線部②の司会の発言の役割として最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 出た意見を整理して確かめ、次の話題に進めている。

イ 出た意見の中から、一つだけを選んで決定している。

ウ 出た意見に反対して、話し合いをやり直している。

エ 自分の意見を述べて、ほかの人の意見を待っている。

問五【資料2】の「はずかしい」という気持ちを減らすための工夫を、【話し合いの一部】に出ていないものとして、20字以内で書きなさい。

問六あなたは、人と気持ちよくかわるために、ふだんの生活でどんなことを心がけたいですか。【資料1】【資料2】から読み取ったことにふれて、次の〈条件〉にしたがって書きなさい。

〈条件〉

- 1 二段落構成とし、百五十字以上百八十字以内で書くこと。
- 2 第一段落には、あなたが心がけたいことを、資料から読み取ったことにふれて書くこと。
- 3 第二段落には、第一段落のように考える理由となる、自分の体験や具体的な場面を書くこと。
- 4 題名は書かずに、本文から書き始めること。

第1回 国語 解答用紙

[illegible]

【二】	
問一 e	
問一 f	
問二	
問三	
問四	
問五	
問六	
問七	

【三】	
問一	
問二	
問三	
問四	
問五	

[illegible]

学校名・名前	得点 / 60
--------	---------

正答と配点

大問	問	正答	配点
一	【一】小説（17点）		17
	問一 a	ひたい	1
	問一 b	ちぢ	1
	問一 c	育	1
	問一 d	励	1
	問二	ア	3
	問三	ア	2
	問四	ア	3
	問五	<p>（例）タイムは変わらなかったが、見えない所で根をのばすように力が育っていると思え、焦りが消えたから。</p> <p>採点：①タイムは変わらなかった（結果は同じ）2点／②根をのばすように力が育っている（見えない成長）2点／③焦りが消えた・気持ちが前向きになった1点。「根」を使い、35～50字であること。</p>	5
二	【二】論説（18点）		18
	問一 e	よゆう	1
	問一 f	正確	1
	問二	ウ	2
	問三	手を動かすこと	3
	問四	イ	2
	問五	ア	3
	問六	イ	3
	問七	次にノート	3
三	【三】古文・漢文（9点）		9
	問一	おもいたちて	1
	問二	ア	2
	問三	ア	2
	問四	ア	2
	問五	ア	2

四	【四】資料と話し合い・作文（16点）		16
	問一	イ	2
	問二	ア	2
	問三	イ	2
	問四	ア	2
	問五	<p>（例）学級であいさつの練習をする時間をつくる。</p> <p>採点：話し合いに出ていない工夫（三年生の参加・一緒にあいさつをする日・先生の協力・ポスターの言葉以外）で、「はずかしさを減らす」ことにつながっていれば可。20字を超えたら不可。</p>	2
	問六	<p>（作文の例）</p> <p>わたしは、自分から先にあいさつをするように心がけたい。【資料2】では「はずかしい」が半数以上だが、だれかが先に声を出せば、周りも続きやすくなると思うからだ。</p> <p>小学生のころ、登校班であいさつを続けたら、近所の人が笑顔で返してくれるようになった。小さな一言が人の気持ちを明るくすると実感した。これからも、自分から声を出したい。</p> <p>採点（6点）：条件を守っている（二段落・150～180字・題名なし・書き出し）2点／資料から読み取ったことにふれ、心がけたいことが書けている 2点／体験や具体的な場面が理由と結びついている 1点／表記（誤字・文末など）1点。</p>	6
合計			60

解き方

【一】 小説

問一 a：「額」は「ひたい」と読みます。

問一 b：「縮まる」の「縮」は「ちぢ」と読みます。

問一 c：「ソダてた」は「育てた」です。

問一 d：「ハゲみ」は「励み」です。

問二：傍線部の直前に「毎日、だれよりも長く走っているのに」「同じ場所で足踏みをしている」とあります。努力が結果に結びつかないくやしさと焦りが、のどの奥が熱くなる様子にあらわれています。

問三：「意味がよく分からず、不思議に思う」ときは「首をかしげる」といいます。

問四：おばあの「根をのぼしているところかもしれん」という言葉が手がかりです。結果が見えなくても、力は育っていると考えられるようになり、胸の重さが軽くなっています。

問五：「タイムは同じ」という結果と、おばあの「根をのぼしている」という考えを結びつけます。笑ったのは、結果は変わらなくても、焦らなくてよいと思えたからです。

【二】 論説

問一 e：「余裕」は「よゆう」と読みます。

問一 f：「セイカクさ」は「正確さ」です。

問二：前で「そのまま写す必要がある」と述べ、後でそれに条件をつけて「すべてを写せばよいわけではない」と付け加えています。付け加えて条件をつける「ただし」が入ります。

問三：②の「頭が手を動かすことだけで精いっぱいになり」を探します。

問四：「大切だ」と言いきりの形にでき、自立語で活用のある語なので形容動詞です。

問五：直前の「どこが大事で、どこがそうでないかを、自分で選ばなければならない」が手がかりです。選ぶこと自体が、考えることだと述べています。

問六：⑧の「写すものと、自分の言葉でまとめるものを、使い分けることが大切なのだ」と合うのはイです。

問七：⑨の「次にノートを開くときには、ただ写すのではなく、……自分に問いかけてみよう。」が、よびかけている一文です。

【三】 古文・漢文

問一：語中の「ひ」は「い」に直します。「思ひ立ちて」は「おもいたちて」です。

問二：法師は、あとで仲間に「山までは見ず」と話しています。ふもとの寺と社だけを石清水八幡宮のすべてだと思いこんでいたことが分かります。

問三：「先達」は案内をする人、「あらまほし」は「あってほしい」の意味です。法師の失敗を受けて、案内人の大切さを述べています。

問四：「学びて」は学ぶ、「思はざれば」は考えなければ、「罔し」ははっきりしない、という意味です。学ぶだけで考えないと、身につかないと言っています。

問五：「思ひて」は考えて、「学ばざれば」は学ばなければ、「殆し」は危うい、という意味です。自分の考えだけで学ばないと、思いこみに陥るおそれがあるということです。

【四】 資料と話し合い・作文

問一：「いつもしている」は一年45%、二年32%、三年26%と減っています。アは二年（32%と38%）、ウは三年（14%）、エは三年（40%）が合いません。

問二：「はずかしい」は52%で、最も多く、半数を超えています。イ・ウ・エは、グラフの数字と合いません。

問三：「いただく」は、「もらう」をへりくだって言う謙譲語です。先生の動作に対して、自分たちの側をへりくだって言っています。

問四：「三つの案が出ました」と意見をまとめて確かめたうえで、「次に、～を考えましょう」と次の話題に進めています。

問五：「はずかしい」を減らすための、新しい工夫を一つ考えます。話し合いにすでに出た案は使えません。20字以内にまとめます。

問六：第一段落は「心がけたいこと＋資料から読み取ったこと」、第二段落は「体験や具体的な場面」と役割を分けます。題名は書かず、二段落目は一字下げて書き始めます。書き終えたら、字数と誤字を必ず見直しましょう。

図・資料の出典

- ・ 【資料1】【資料2】は、ちりつもドリルが作った架空の学校のアンケートである。